

たんすの引き出し

久本 恵子

2019.05.22
わが家のたんすは、いわゆる婚礼家具三点セットの一つで、和だんす、洋だんすと共に実家から持ってきたものだ。

ちなみに私たち夫婦の結婚は、令和元年の2019年からさかのぼること35年前、1984年10月のことであった。ずい分時間がたったものだ。

下半分の4段の横長の引き出しは、夫と私と各自二つずつ分けて使っている。一番下の段には、普段使いの私のTシャツや下着類を入れてる。最近、どうも一番下の引き出しが開けにくくなってきた。頻繁に開け閉めするというのに、開けにくいし、なかなか閉まらない。大きな声では言えないが、時には蹴りを入れて閉める。使用年数35年の重みだろうか。

「たんすの引き出しは改善できるか、よい知恵が浮かばないまま日が過ぎた。ある朝、はたと気づいた。ちよつと待てよ、なぜ一番下の段が下着類なのか、そもそも、誰が決めたのか、これは変えられないのか。

エッセイ そうだ。変えたっていいんだ。引き出しの上と下を入れ替えればいいじゃないか。どうしてこんな簡単なことを今まで思いつかなかつたのだろうか。

山陽新聞夕刊 エッセイ
自分で言うのも気恥ずかしいが、新婚当時の、おそらく今よりは初々しかった新妻（私のこと）は、奥ゆかしく自分の下着類などは一番下の引き出しに、とか思っただろう。新妻も35年たった。もういいだろう。

お休みの日曜日、横長の4段の引き出しを上下入れ替えて、私の

下着類の引き出しは上から2段目にした。中もきれいに掃除、整理し直して、2時間くらいかかったが、スムーズに開け閉めできるよになり、出し入れが楽になった。やれやれ、さっぱりした。

確かこういうのをパラダイム（価値観）の転換とかいうのではないか。まあ、そこまで大げさなことではないのだが、ささやかながら今までの価値観で凝り固まっていたものが突然ガラッと崩れてよい方になると、誠に爽快な気分だ。

いつしか還暦となり、今年5月には平成から令和への改元を迎えた。大きな時代の節目に呼応するかのように、私自身の人生の潮目も変わってきているような。いわば、これからは、下り坂をそろそろと、でも明るく顔を上げて下っていく。そんな風になれるといいのかな、とも思い始めた。

その途中で、まだまだ笑顔になれる新しいことに直面したり、今1まで疑問に思わなかったことを楽しくひっくり返してみたりするだろう。

それらもまた、長く生きることのよき、自分をより深く知る旅の味わいか

作者 久本恵子

題名 たんすの引き出し

山陽新聞夕刊 エッセイ

2019. 7.18

掲載